

令和2年第1回大仙市議会定例会

施政方針演説

令和2年2月21日

大仙市長 老松博行

令和2年第1回大仙市議会定例会にあたり、令和2年度の市政運営の基本方針と施策の概要について、ここに申し述べます。

1 はじめに

「令和」の時代となって初めての新春を迎えました。今年は十二支の始まり「子年」であり、中国の「漢書」によれば、新しい生命が種子の中に萌（きざ）し始めることを指すとされています。まさに未来への可能性を感じさせる年であります。折しも、今年是世界中から注目され、日本全体が躍動する「東京2020オリンピック・パラリンピック」が開催される年であります。日本中が大いに盛り上がり、未来に向けた大きなステップとなりますことを期待いたしますとともに、本市においても希望や期待にあふれ躍動する1年となりますよう全力で市政運営に取り組んでまいります。

さて、記録的な少雪の中で穏やかな年が明けた令和2年ではありますが、スキー場の早期営業終了や一部冬行事の中止など、様々な影響が出てきております。2月に入り、まとまった降雪があったものの、春以降の水不足が懸念されており、市民生活や農作物の生育に影響を及ぼさないよう情報収集と対策の検討を進めてまいります。

また、世界中を巻き込み、未だ終息の見通しが立たない新型コロナウイルスの感染拡大ではありますが、本市では2月7日に「大仙市新型コロナウイルス対策部」を立ち上げ、国や県、医療機関との連携を図りながら情報収集や感染予防方法の周知、相談窓口の設置などを実施しており

ます。市民の皆様の不安を取り除くとともに、有事の際の迅速な対応に備え、引き続き万全な体制づくりに努めてまいります。

昨年を振り返りますと、本市におきましては、「大仙市花火産業構想第Ⅱ期」のスタートや岩手県宮古市との友好交流都市協定の締結、「大曲武道館建替事業」や「(仮称)大綱交流館整備事業」の実施など、地域の活性化や交流人口の増加、市民の皆様の活動増進につながるような取組を積極的に進めた年でありました。

今年も、これまでの取組を一層加速させるとともに、時代の潮流を的確に捉えた本市の未来につながる先進的な取組や、既成概念にとらわれない創意ある取組に挑戦し、地域をすみずみまで元気にする、住み良さを実感し将来に希望が持てるまちづくりを着実に推進してまいります。

2 重点施策について

本市では、昨今の人口減少をはじめとした社会全体の大きな変化に対応し、市政運営の羅針盤である「第2次大仙市総合計画基本構想」のもと、人口減少の抑制と地方創生の実現を図るため、今般「第2期大仙市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、新年度から農業や商工業の振興、子育て支援などの6つの重点施策と14のパッケージに基づいた実効ある取組を積極的に進めることとしております。

(1) 新時代に向けた農業振興策の強化

重点施策の一つ目に掲げる「新時代に向けた農業振興策の強化」につ

きましては、本市にとって重要な産業である農業を守り、育み、次世代に引き継いでいくための取組について幅広く展開していくというものであります。未来を見据えた「だいせん農業」の確立に向けた取組として、担い手の確保育成や農地集積の加速化、ほ場整備などの農業基盤づくりに力を入れるとともに、基幹である稲作と畑作・園芸作物等との複合経営化を推進し、大仙ブランドの確立に力を入れてまいります。

また、地域企業等と連携した6次産業化や地産地消を一層進めるとともに、先端技術を導入したスマート農業の推進も加速させてまいります。

さらに、花火産業構想に続く地方創生の第二の矢として策定する「農業と食に関する活性化基本構想」に基づき、恵まれた風土を活かした強い農業の推進や、優れた農産物・地酒・食文化などの強みを活かした裾野の広い産業の振興、「美食産地 大仙」の情報発信の強化、並びに「農業と食」による地域の活性化の4つを基本方針とした大仙市全体が活気づく取組を積極的に進めてまいります。

(2) 地域企業の振興と企業誘致の強化

重点施策の二つ目に掲げる「地域企業の振興と企業誘致の強化」につきましては、商工業の振興が就業機会の創出や所得向上はもとより、若者や移住者の定住促進に加え、結婚・出産につながる本市発展の「要」であるとの考えのもと、多岐にわたる商工業振興策を重層的に展開していくというものであります。地域企業の情報発信や若者の雇用促進、多様な人材の活躍に向けた環境整備、地域企業の販路開拓支援、中小

企業の経営基盤強化などを進めるとともに、企業誘致や創業支援の強化などに取り組んでまいります。

このうち、企業誘致の強化として取り組む新たな企業団地の整備については、1月から設計及び測量業務に着手しており、今後、地権者及び関係者への説明を丁寧に行いながら事業を着実に推進してまいります。

加えて、これにあわせた企業誘致策として、新たに建物や設備の整備に対し最高1億円を助成する制度を創設するなど、支援策の強化も図ってまいります。

(3) 移住定住の促進と若者がチャレンジできる環境づくり

重点施策の三つ目に掲げる「移住定住の促進と若者がチャレンジできる環境づくり」につきましては、現在の転出超過に歯止めをかけ、人口減少の抑制につなげるとともに、若者が自分の夢に向かってチャレンジできるような環境づくりに取り組むというものであります。

「第2期移住・定住促進アクションプラン」に基づき、移住コーディネーターや移住者向け無料職業紹介所の設置、移住体験応援事業などの効果的な取組を実施するとともに、「女性が住みたくなるまちづくりワークショップ」の開催や、空き家の活用と移住促進を組み合わせた「リノベーションまちづくり」など新たな取組の検討を進めてまいります。

また、高校生や県外進学者等への地元企業情報の発信、奨学金返還助成制度の創設、雇用助成金のAターン枠の活用促進などにより、地域全体で若者のふるさと回帰を応援してまいります。

さらには、子どもが郷土に誇りを持つふるさと教育の推進や、本市を応援してくださる関係人口の創出・拡大などにも力を入れてまいります。

(4) 結婚・出産の希望をかなえ子育てしやすい環境づくり

重点施策の四つ目に掲げる「結婚・出産の希望をかなえ子育てしやすい環境づくり」につきましては、出会いから結婚、出産、子育てなどのライフステージに応じた切れ目のないサポート体制を構築するというものであります。

出会い・結婚の支援については、結婚を機に本市に居住する新婚夫婦に対し地域商品券を交付する「結婚祝い金事業」を実施するとともに、条件を満たす新婚夫婦に対し住宅の取得費用や引越費用等の一部を支援する「結婚新生活支援事業」を実施してまいります。

また、出産後に係る支援として、出産後において支援を要する産婦とその子に対しケア・サポートを行う「産後ケア事業」を実施するとともに「出産祝い金」として地域商品券を交付する「スマイル子育て応援事業」を実施することとしております。

子育て支援については、昨年10月からスタートした「幼児教育・保育の無償化」について、子育て家庭の経済的負担を一層軽減するため、無償化から外れた副食費の全額を助成するとともに、在宅で子育てする家庭への支援として新たに「在宅保育すこやか応援事業」を実施してまいります。また、児童クラブの利用希望者の増加を受け、大曲小学校区に「第4ぽぷら児童クラブ」を開設するほか、「第2いちよう児童クラ

ブ」の定員を増員するとともに、利用者負担金を減額するなど、子育て世帯の利用ニーズにあわせた運営に努めてまいります。

福祉医療制度については、県制度に市の独自支援を加えた助成形態を継続しつつ、令和2年8月診療分から対象年齢を18歳まで拡大するとともに、所得制限を撤廃し、自己負担分の全額を助成してまいります。

(5) とともに支え合い誰もが活躍できる地域づくり

重点施策の五つ目に掲げる「ともに支え合い誰もが活躍できる地域づくり」につきましては、人生100年時代と言われる中、市民の皆様が健やかに、そして幸せに暮らせる「健幸寿命」を伸ばすとともに、相互に支えあい、一人ひとりが能力や個性を発揮し活躍できる包摂性^{ほうせつせい}のある地域、そして安全・安心に暮らせる地域社会を構築するというものであります。

地域との協働による健康づくりや地域住民が主体となった組織づくりに加え、見守りや家事援助等の生活支援サービスの充実を図るほか、医療・介護の連携や予防事業の展開、総合相談体制の強化や地域ケア会議の推進など、地域包括ケアシステムの充実に向けた取組を進めてまいります。

また、「第2次大仙市雪対策総合計画」に基づき、自治会等による自主的な除雪活動への支援や除雪困難な高齢者等への支援のほか、高齢者の就労促進や老人クラブ活動への支援を行うなど、生涯を通じて誰もが活躍できる地域社会の形成に取り組んでまいります。

(6) 地方創生への挑戦

重点施策の六つ目に掲げる「地方創生への挑戦」につきましては、地域の元気は大仙市全体の元気であり、ひいては日本全体の元気の創出につながるという考えのもと、地域にある資源を見つめ直し、磨き上げ、新たな産業として発展させることによって地方創生を実現していくというものであります。

地方創生の第一の矢として位置づける「大仙市花火産業構想」につきましては、来年度から「大曲の花火」を軸とした海外展開の本格検討をスタートさせることとしております。構想では、海外の花火都市との国際交流推進事業の実施や国際花火競技大会の開催などを主要施策として掲げており、「花火のまち大仙市」を世界に向けて発信し、インバウンド誘客を促進させ、地域経済への波及と産業の活性化に結びつけてまいりたいと考えております。

また、この海外展開の検討にあわせ、「大曲の花火」のブランド力をさらに強化するため、今年25日に「中小企業地域資源活用促進法」に基づく「ふるさと名物」として「大曲の花火」を応援宣言することとしております。この宣言をきっかけに、「大曲の花火」を活用した中小企業等の新たな取組が生まれ、世界に発信できる地域ブランドとして大きく成長し、地域経済・産業の活性化の原動力のひとつにしたいと考えております。

このほか、地方創生の第二の矢である「大仙市農業と食に関する活性化基本構想」を着実に推進するとともに、第三の矢としてイメージして

いる文化財や名勝、史跡、伝統行事や伝統芸能などをテーマにした新たな活性化構想についても今後策定に向けて検討を進めてまいります。

3 令和2年度当初予算（案）の概要について

次に、令和2年度当初予算（案）の概要について申し上げます。

当初予算（案）につきましては、「第2次大仙市総合計画 後期実施計画」並びに「第2期大仙市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の計画期間の初年度となることから、本市の将来を見据えた施策の展開を図ることに重点を置き、これまでの取組についての的確に分析・評価した上で、潜在的な成長力の更なる掘り起こしのほか、少子化や子育て支援、若者の定住対策などを強く押し進める取組に対し、予算を優先的に配分しております。

一般会計の予算規模につきましては、前年度に比べ2億6,050万円、率にして0.6%の減となる424億620万円を計上しておりますが、令和2年度へ繰り越す国の補正予算第1号に関連する事業約7億8千万円を、今次定例会に補正予算案として計上していることから、実質的な予算額が431億円を超え、前年度予算額を上回るものであります。

重点施策への予算配分につきましては、結婚から妊娠・出産・子育てに至るまで切れ目のない支援に加え、第2期移住・定住促進アクションプランや花火産業構想第Ⅱ期に関連する取組を含む「地方創生へのチャレンジ」に32億8,100万円、「地元企業の振興と企業誘致の強化」

に3億1,500万円、農業と食に関する活性化基本構想の取組を含む「新時代に向けた農業振興策の強化」に18億6,200万円、「地域全体の元気づくり」に8億5,200万円、「市民生活を守る安全・安心なまちづくり」に46億200万円を計上しており、合計予算額109億1,200万円、率にして25.7%となっております。

その他の会計につきましては、新たに企業団地整備事業特別会計を加えた14事業の特別会計の合計が106億8,334万2千円、4事業の企業会計の合計が98億3,545万1千円、これらを含む全会計の予算総額は629億2,499万3千円となっております。

なお、予算編成にあたっては、一般財源の不足を補うため財政調整基金の取り崩しを行っておりますが、一定の基金残高を確保できるよう、令和元年度の決算見込み等を勘案し、積み増しを行ってまいります。

今後も財政規模の縮小は避けられないことから、自主財源の確保に向けた取組のほか、限られた財源の中で一層の選択と集中を進めながら、持続可能かつ健全な財政運営に努めてまいります。

4 令和2年度の主な施策の概要について

次に、令和2年度の主な施策の概要について、総合計画の施策の体系順に申し上げます。

(1) 魅力ある産業のまちを創ります

はじめに、産業振興・雇用などについてであります。

（農林水産業の振興）

稲作につきましては、堅調に推移する米価の維持や農業所得の向上を図るため、米の事前契約の促進と生産調整の実効性確保に努めるとともに、高品質米や特色ある米づくりに対し引き続き支援し、需要に基づいた米の生産を推進してまいります。加えて、農地集積・集約化による経営規模の拡大やコスト削減を図るため、稲作を主体に取り組む経営体に対し水稻作業用機械の導入を支援してまいります。

また、本市独自の取組として進めている大豆の生産振興を推進するとともに、高収益が期待できる枝豆やリンドウなどの生産に係る機械の導入に対し支援を行い、引き続き産地づくりを推進してまいります。さらに、農業法人が規模拡大に取り組むいちご生産施設等の導入に対し県の補助事業とあわせて支援を行い、周年農業の確立を進めてまいります。

6次産業化につきましては、事業化に取り組む意欲ある農業者等に対し、加工に必要な機械・施設の導入支援、原料作物の生産支援を行うなど、一体的に生産・加工・販売に取り組むことができる環境の整備を進めてまいります。また、収益力の強化や生産規模の拡大を目指す畜産農家に対し、国の畜産クラスター事業や県事業を活用し、繁殖牛増頭等に向けた支援を行ってまいります。

担い手の確保育成対策につきましては、東部・西部新規就農者研修施設での若手就農者の育成のほか、法人化支援、経営安定化に向けたフォローアップなどを実施してまいります。また、農業生産基盤の整備

として、新たに採択される太田地域の「太田南部地区」を含め、14地区で実施される県営ほ場整備事業を推進してまいります。

林業振興につきましては、森林資源の適切な管理を目的に創設された「森林管理制度」において、森林所有者に対し今後の管理方針について意向調査を行うなど、適切な森林整備の促進に努めてまいります。

(商工業の振興)

企業にとって大きな課題となっている人材確保につきましては、昨年10月に厚生労働省と委託契約を締結した「地域雇用活性化推進事業」の実施により、魅力的な雇用の創出や地場産業を担う人材の育成に取り組み、人材不足の解消を図ってまいります。

また、「地域商店街元気づくり事業」につきましては、今年度、県の「起業者を呼び込める商店街づくり支援事業」を活用した刈和野地区の取組を市全域に展開することとしており、大仙市商工会と連携を図りながら地域商店街の活性化と持続的発展に努めてまいります。

(観光の振興)

観光振興につきましては、県及び東日本旅客鉄道株式会社 秋田支社との連携のもと、首都圏において観光キャラバンを実施するとともに、「大曲の花火」を中心とした本市の魅力ある観光資源に加え、大仙市生まれの秋田犬「マサル」の知名度を活用し、首都圏に設置するアンテナブース等で観光PRイベントを開催するなど、本市の知名度の向上と

交流人口の更なる拡大に努めてまいります。

また、観光客をはじめとする利用者の利便性向上を図るため、駅舎や道の駅などの観光の拠点である施設整備を計画的に進めることとしております。令和2年度は、JR大曲駅と併設する市所有施設において、エスカレーターの増設工事に着手するとともに、市観光情報センターの機能拡充を進めてまいります。

温泉施設につきましては、太田町生活リゾート株式会社の解散に伴い、4月から中里温泉を市が直接運営することとしておりますが、今後、市が関連する全ての温泉施設についても経営状況や利用状況等を総合的に勘案し、健全な施設運営に向けた見直しを順次進めてまいります。

(2) みんなの元気を応援します

次に、子育て、健康・福祉などについてであります。

(保健・医療の充実)

任意の予防接種につきましては、子育て世帯の経済的負担の軽減と接種率の向上を図るため、新たに「おたふくかぜ」の予防接種に要する費用の一部を助成してまいります。

がん対策につきましては、これまで子宮頸がん、乳がん、胃がん及び肺がんの検診で実施していた「コール・リコール」事業に、新たに大腸がん検診を追加し、受診率の向上とがんの早期発見、早期治療に結びつけてまいります。

（社会福祉の充実）

障がい者支援につきましては、令和2年度末までに行う地域生活支援拠点の整備や、利用者ニーズに即した事業内容の見直しなど、住み慣れた地域で安心して暮らすことができる地域社会の実現を目指してまいります。

福祉関係計画につきましては、「地域福祉計画」、「高齢者プラン」及び「障がい福祉計画・障がい児福祉計画」が令和2年度に計画期間の最終年度を迎えることから、これまでの取組を検証するとともに、社会情勢やニーズの変化を的確に捉えた実効ある計画を策定してまいります。

（スポーツの推進）

スポーツ振興につきましては、3月16日にミズノ株式会社と包括連携協定を締結するほか、令和2年度の株式会社楽天野球団とのパートナー協定や、大塚製薬株式会社との包括連携協定の締結に向けた協議を進め、スポーツ活動を通じた市民の健康の維持増進に努めてまいります。

また、7月18日から20日までの3日間、本県を含む全国32チームの参加のもと、第4回全国500歳野球大会を開催することとしており、関係機関と連携した「おもてなし」を充実させ、交流人口の拡大と市のPRに努めてまいります。

「東京2020オリンピック・パラリンピック」に関連した取組につきましては、6月9日に県の公募ランナーや本市の推薦ランナーを

含めた18名が参加し、大曲飯田地区からヒカリオイイベント広場までを区間とする聖火リレーが開催されます。

また、8月15日に仙北地域で開催される「彩夏せんぼく」にあわせ、「パラリンピック聖火フェスティバル」を開催し、古代方式の火起こしによる聖火の採火式を執り行うこととしており、スポーツイベントを通じた地域の活性化に努めてまいります。

(3) 住みよいまちを築きます

次に、安全・安心、都市整備などについてであります。

(自然環境の保全)

地球温暖化防止対策につきましては、市の関連施設から発生する二酸化炭素の排出を抑制するため、国の補助制度を活用して省エネルギー設備等の導入工事を実施しております。令和2年度は、協和支所、仙北ふれあい文化センター、仙北図書館を対象に二酸化炭素排出削減効果の高い設備の導入を計画しており、低炭素社会の実現に資する取組を推進してまいります。

(安全・安心体制の充実)

消費者行政の推進につきましては、高度化する特殊詐欺等から市民の皆様を守るため、専門相談員による相談窓口を維持するとともに、FMはなびを活用した注意喚起の実施や「特殊詐欺等電話撃退装置」の無料

貸出等を行ってまいります。

消防団活動の充実につきましては、団員の確保や士気高揚、地域の活性化を図るため、新たに市内の協力店舗等において、消防団員を対象とした割引サービス等を提供する「消防団応援の店事業」を実施するほか、消防団音楽隊の設置に向けた準備を進めるなど、地域防災の要である消防団員を地域全体で応援する体制づくりに取り組んでまいります。

防災対策につきましては、自主防災組織の積極的な活動を働きかけるとともに、「地区防災マップ」や「マイ・タイムライン」の策定を促進し、共助による避難体制の構築を目指してまいります。

また、現在、県が実施している県管理河川の浸水想定区域の見直しや土砂災害警戒区域等の調査終了にあわせ、近年の災害状況に即した新たなハザードマップの作成に向け準備を進めてまいります。このほか、県管理河川流域の内水氾濫箇所について、河川毎にハード・ソフト一体となった防災・減災対策の取組を県と協働で実施するとともに、大規模自然災害に備えるための防災や減災対策に加え、迅速な復旧・復興に資する施策を総合的に取り組む「国土強靱化地域計画」を策定し、災害に強いまちづくりを推進してまいります。

(空き家対策)

空き家対策につきましては、「空き家等の適正管理に関する条例」に基づき、危険な空き家の所有者等に対し適正な管理を求めるとともに、必要に応じて解体費の一部を助成するほか、新たに空き家の所有者へ

管理事業者の情報を提供する「空き家管理サービス事業者登録制度」を実施してまいります。

また、「大仙市空き家等対策計画」が令和2年度に計画期間の最終年度を迎えることから、これまでの取組を検証するとともに、危険な空き家の対応に取り組む自治会等への支援も視野に入れ、更なる空き家対策の推進に向けた実効性ある計画を策定し、安全・安心で快適な生活環境の提供に努めてまいります。

（公共交通の整備）

「秋田新幹線防災対策トンネル整備促進期成同盟会」につきましては、首都圏等との大動脈である秋田新幹線の安全性向上と安定的運行に資する防災対策トンネルの早期整備実現に向け、引き続き国等への要望活動を行ってまいります。

地域公共交通の整備につきましては、市民アンケートや交通事業者との意見交換をもとに、各地域の実情に即した新たな交通システムを構築し、その実証運行を行ってまいります。

また、「大仙市地域公共交通網形成計画」が令和2年度に計画期間の最終年度を迎えることから、これまでの取組の検証を行うとともに、実証運行の結果を反映させた実効性のある計画を策定し、持続可能な公共交通の整備に取り組んでまいります。

（環境衛生の整備）

一般廃棄物最終処分場につきましては、令和3年度に廃止を予定している大曲地域及び中仙地域の最終処分場のモニタリング調査を行い、残る5カ所の最終処分場についても計画的な廃止に向けた準備を進めてまいります。

（道路・河川等の整備）

道路整備につきましては、平成29年から2カ年にわたり発生した豪雨災害に伴う災害復旧工事が概ね完了したことから、今後、一時的に抑制していた道路改良や舗装補修等による交通インフラの整備を強化し、利用者の利便性向上に努めてまいります。また、きめ細やかな道路パトロールの強化に加え、昨年度から本格運用しているスマートフォンを活用した道路情報収集システムを更にPRするとともに、市民から寄せられる情報に迅速な対応を図るなど、安全で快適な道路空間の確保に努めてまいります。

橋りょうの老朽化対策につきましては、大曲地域の姫神橋、仙北地域の刈又橋の大規模な修繕工事を行うとともに、平成26年3月に策定した「橋梁長寿命化修繕計画」の見直しを行い、効率的かつ効果的な維持管理に取り組んでまいります。

また、国道46号盛岡・秋田道路及び国道105号大曲・鷹巣道路の整備促進については、現在、関係自治体とともに要望活動を実施しております。国道13号については、横手・大曲間において改修整備に向け

た要望活動を行っておりますが、大曲・秋田間も一部区間を除き片側1車線であることに加え、急勾配や急カーブ区間が点在するなど様々な問題を抱えていることから、関係自治体と同盟会を立ち上げ、その解消に向けた要望活動を展開してまいりたいと考えております。

（上下水道の整備）

上水道事業につきましては、令和2年度から新宇津台浄水場の運転を開始するほか、引き続き老朽化した配水管の改良工事を行い、安全・安心な水道水の供給に努めてまいります。また、新たに加圧式給水車1台及び組立式給水タンク4基を導入し、自然災害等による断水時の対応を強化してまいります。

簡易水道事業につきましては、神岡神宮寺地区、北檜岡地区及び西仙北大野地区を統合するとともに、統合地区の給水範囲を大曲松倉地区まで拡張するため、新たな水源地の築造や、急速ろ過設備の増設、管路の布設を進めてまいります。また、南外地区の給水範囲を内小友中山地区まで拡張するため、設計業務の委託や管路の布設工事に着手してまいります。

下水道事業につきましては、大曲地域における公共下水道の整備完了に向け引き続き管路工事を実施するほか、長寿命化対策として、佐野町、若竹町、朝日町の管渠改築工事を実施してまいります。

また、人口減少や施設の老朽化に対応するため、神岡東部、仙北地域の払田地区、福田地区、薬師地区の各農業集落排水を流域下水道に接続

する工事を実施するとともに、農業集落排水処理施設の機能診断調査を行い、施設の統廃合や更新を進めてまいります。

(住環境の整備)

住環境の整備につきましては、住宅の耐震化率の向上に向け、木造住宅の耐震診断、耐震改修の費用に対する助成を引き続き行うほか、子育て世帯への支援を強化した「住宅リフォーム支援事業」を実施し、更なる居住環境の向上に努めてまいります。

市営住宅の長寿命化につきましては、「公営住宅等長寿命化計画」が計画期間の最終年度を迎えることから、更なる予防保全的な維持管理や長寿命化に有効な改善策に向けた新たな計画を策定し、将来を見据えた施設管理を進めてまいります。

(4) 豊かな心と創造力を育みます

次に、教育、生涯学習、芸術・文化などについてであります。

(学校教育の充実)

教育内容の充実につきましては、キャリア教育推進「総合的な学力育成」事業や「大仙ふるさと博士育成」事業を引き続き実施し、自分らしい生き方を実現できる資質や能力を育成する機会の創出に努めてまいります。

学習環境の整備につきましては、令和2年度から小学校における外国

語活動の学習時間が大幅に増加することを受け、英語教育アドバイザーの配置やALTの増員などによる指導体制の強化を図るとともに、「グローバルジュニア・マイスター育成事業」による児童生徒の体験活動の充実に努めてまいります。

中仙地域の学校統合につきましては、「中仙地域統合小中学校開校準備委員会」に分野ごとの作業チームを編成し、保護者や地域関係団体への説明、施設整備の検討などを行いながら、令和3年4月の開校に向け、準備を進めてまいります。

「花館小学校校舎増築事業」につきましては、校区内の住宅地造成により、子育て世代の流入による児童数の増加が予想され、令和3年度には普通教室の不足が見込まれることから、児童規模にあわせた施設整備を進めてまいります。

(生涯学習の推進)

西仙北地域で整備を進めている「(仮称)大綱交流館整備事業」につきましては、7月中旬の完成に向け順調に工事が進捗しております。開館は10月を予定しており、新たな地域の拠点として多くの皆様から利用していただける施設となるよう準備を進めてまいります。

総合図書館事業につきましては、令和2年度から始まる「第3次大仙市親と子の夢を育む読書活動推進計画」に基づき、読書活動の機会の充実や習慣化に資する取組を進めてまいります。

（芸術・文化の振興）

総合市民会館事業につきましては、4つの市民会館において優れた芸術鑑賞の機会を提供するほか、「音楽のまち大仙市」として市内の児童生徒をはじめ、音楽団体や幅広い音楽ジャンルからの参加を促進し、より多くの市民の皆様楽しんでいただける「大仙市音楽祭」を開催してまいります。

この「音楽のまち大仙市」に関連した取組である「ミュージックフェスティバル in DAISEN」につきましては、本市に縁のある歌手が出演する歌謡祭に加え、新たに「民謡祭」や「太鼓祭」をあわせた総合的な音楽イベントとして2日間にわたり開催することとしており、音楽や郷土文化を通じた地域の活性化に努めてまいります。

文化財の保護・活用につきましては、本市が所蔵する「鈴木空如筆法隆寺金堂壁画」が3月13日から5月10日までの間、東京国立博物館を会場に開催される特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」に展示されます。これを契機として捉え、本市文化財の歴史的価値の普及と文化財を活用したまちづくりを進めてまいります。

（地域間交流・国際交流の推進）

地域間交流につきましては、友好交流都市である神奈川県座間市、岩手県宮古市及び有縁交流都市である宮崎県宮崎市の3市と、青少年や市民団体による交流の充実を図り、友好関係の更なる発展を目指してまいります。

国際交流につきましては、友好交流都市である韓国唐津市との青少年交流事業の実施や、台湾新北市中和区との中学生交流に向けた取組を行うなど、観光や教育、文化等の様々な分野の交流発展に努めてまいります。

(5) 時代に合った地域を創ります

次に、地域社会の維持・活性化等についてであります。

(地域社会の維持・活性化)

地域社会の維持・活性化につきましては、地域の課題解決に向けた市民活動を応援する地域枠予算に加え、自治組織の育成、自治会館の維持管理に対する支援を引き続き行ってまいります。

(市民との協働)

市民との協働によるまちづくりにつきましては、地域資源の掘り起こしと活用を目的とした「地域の魅力再発見事業」による各地域の特色ある取組に加え、新たな事業を展開することにより、各地域の魅力を更に磨き上げてまいります。

(行財政運営の効率化)

組織機構の再編につきましては、人口減少の進行と財政規模の縮小により職員数が減少していく中で、地域の窓口である支所体制の維持を

重視しつつ、将来を見据えた行政サービスの維持・向上につながる体制を構築してまいります。具体的には、各支所に建設・上下水道業務に関連する窓口機能を残しつつ、市内3つのエリアに土木系などの専門職を集約し、それぞれの拠点の本庁、太田庁舎、協和庁舎に設置するとともに、公共施設の老朽化対策や公有財産の有効活用を行う「財産活用課」、スマートシティへの転換を見据えながら行政運営に新たなICT技術の導入を進める「ICT推進課」を本庁に設置することとしております。

また、市民生活に直結する業務を担う「税務課」及び「債権管理課」については、事務の効率化と窓口の簡素化を図るため、「総務部」から「市民部」へ移管することとしており、今次定例会に条例案を上程しております。

5 むすびに

以上、市政運営に対する私の考え方について申し上げます。

結びに、今年は、大仙市誕生15周年という記念の年であり、「第2次大仙市総合計画 後期実施計画」や「第2期大仙市まち・ひと・しごと創生総合戦略」による新たなまちづくりがスタートする節目の年であります。これまでの歩みを振り返るとともに、本市の将来を展望した「新たな道」を切り拓いていくための契機にしたいと思っております。

2015年に国連総会で採択された、SDGsを含む「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の宣言の中に、「我々は貧困を終わらせることに成功する最初の世代に成り得る。同様に、地球を救う機会

を持つ最後の世代になるかも知れない」という一文があります。これが意味する期待感と危機感の共存は、人口減少の抑制と地方創生の挑戦にも通じ、人口減少に終止符を打つ最初の世代に成り得ると同時に、地方創生を実現できる最後の世代になる可能性がある」と読み替えて、私自身の市政運営の糧にしているところでもあります。本市が次なるステージへと希望の花を大きく咲かせていくためには、今を生きる私たちの熱意や行動が重要であります。未来を創るのは今この時であり、この時代に汗をかき躍動しなければならないという強い決意と覚悟のもと、市勢発展に向けた「だいせん創生」に市民の皆様とともに力強く取り組んでまいります。

市民の皆様並びに議員各位からのより一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。令和2年度の施政方針といたします。

令和2年第1回大仙市議会定例会

市政報告（諸般の報告）

令和2年2月21日

大 仙 市

目 次

【総務部】

- 1 雪下ろし技能講習会について..... 3
- 2 第6回大仙市シェイクアウト訓練について..... 3
- 3 大仙市防災会議について..... 3

【農林部】

- 4 大仙農業元気賞について..... 3
- 5 6次産業化セミナーについて..... 3

【経済産業部】

- 6 令和2年3月高校卒業予定者の就職状況について..... 4
- 7 秋田県・県内市町村と首都圏企業との懇談会について..... 4
- 8 大曲・仙北地域合同就職面接会について..... 4
- 9 仙北地域企業説明会について..... 4
- 10 市内の小正月行事等について..... 4
- 11 首都圏PRイベントについて..... 5
- 12 宮崎県宮崎市との青少年交流について..... 5
- 13 岩手県宮古市の令和元年台風19号被害に伴う寄附について..... 5

【建設部】

- 14 雄物川河川激甚災害対策特別緊急事業（国）について..... 5
- 15 災害復旧関連事業等（県）について..... 5
- 16 はなびの小路整備事業について..... 5
- 17 大曲駅東駐車場拡張整備工事について..... 6

【災害復旧事務所】

- 18 災害復旧事業について..... 6

【教育委員会 教育指導部】

- 19 小・中学校の部活動について..... 6
- 20 大仙市中学校生徒海外派遣事業について..... 6
- 21 「大仙ふるさと博士育成」事業について..... 6

【教育委員会 生涯学習部】

- 22 大曲武道館の改築について..... 7
- 23 河港のまち角間川・歴史まちづくり事業について..... 7

【上下水道局】

24	上水道事業について.....	7
25	簡易水道事業について.....	7
26	下水道事業について.....	7

【総務部】

1 雪下ろし技能講習会について

昨年12月18日、屋根の雪下ろしに関する正しい知識の習得と事故防止のため、大曲地域職業訓練センター及び県仙北地域振興局を会場に開催し、市民や関係者など約100人が参加しました。大仙警察署員による雪下ろし事故の事例紹介を中心とした「座学講習」や、大曲消防署員による安全な雪下ろし作業のための「実技講習」が行われました。

2 第6回大仙市シェイクアウト訓練について

1月23日午前11時、友好交流都市の神奈川県座間市と連携を図り、市内の学校や企業、団体の関係者など目標を上回る40,641人の参加により、一斉に実施しました。また、冬期間の停電をテーマに行ったプラスワン訓練では、前年度の倍以上となる163団体が参加し、災害時の電源の確保や通信手段の確認など、それぞれの参加団体による自主的な取組が行われました。

3 大仙市防災会議について

昨年12月19日、防災委員31名の出席により開催し、大仙市地域防災計画の改正案について審議したほか、避難所開設に伴う担当職員の研修内容や拡充した災害時の情報伝達手段等について報告しました。

【農林部】

4 大仙農業元気賞について

3月24日に開催を予定している大仙市農業研修会において、西仙北、中仙、協和、太田の各地域で活躍する若手農業者4名を表彰することとしており、これまで受賞された37名と同様に、地域農業をけん引する若きリーダーとして更なる活躍を期待しています。

5 6次産業化セミナーについて

2月4日、6次産業の事業化に向けた意識の醸成と取組の推進を図るため、市内農業者や事業者等を対象にセミナーを開催し、商品開発コーディネーターによる講演会を行ったほか、秋の稔りフェアで実施した「いぶりがっこ2次商品開発アイデアコンクール」の最優秀賞1団体と優秀賞2名を表彰しました。

【経済産業部】

6 令和2年3月高校卒業予定者の就職状況について

ハローワーク大曲によると、昨年12月末時点の求人数は605人、就職希望者は319人、この内301人が内定しており、率にすると94.4%と、県平均94.6%を0.2ポイント下回りました。

7 秋田県・県内市町村と首都圏企業との懇談会について

県内に進出している企業の関係者と知事及び市町村長との懇談会が1月14日に大阪府、1月15日に東京都で開催されました。大阪府で開催された懇談会には83人が参加し、本市からは市長が出席しました。また、東京都で開催された懇談会には368人が参加し、本市からは西山副市長が出席しました。懇談会では、景況等について情報交換を行ったほか、本市の企業支援策等を紹介しました。

8 大曲・仙北地域合同就職面接会について

1月12日、雇用の拡大を図るとともに、企業の人材確保を支援するため、フォーシーズンを会場に開催し、大曲・仙北地域内の企業42業者と来場者102人が参加しました。

9 仙北地域企業説明会について

2月17日、地域企業を知り就職に対する理解を深めるとともに、早期離職の防止と若者の地元定着を図るため、仙北ふれあい文化センターを会場に開催し、地元企業を含む40業者と大曲仙北管内の高校2年生362人が参加しました。

10 市内の小正月行事等について

大仙の冬を盛り上げる小正月行事や冬まつりが、市内各地域で次のとおり開催されました。なお、記録的な少雪により、2月1日に予定していた「払田柵の冬まつり（仙北）」が中止になりました。

1月19日 八坂神社ぼんでん（中仙）

2月 1日 太田の火まつり（太田）

2月10日 刈和野の大綱引き（西仙北）

2月11日 川を渡るぼんでん（大曲）

2月14日 押切の火振りかまくら（中仙）

2月15日 鳥子舞・大曲の綱引き（大曲）

11 首都圏PRイベントについて

1月11日、12日の両日、代々木公園イベント広場を会場に「AKITAワンダフルフェス2020」が行われたほか、1月24日、25日の両日には、JR川崎駅を会場に「函館・津軽・秋田広域観光推進協議会観光キャラバン」が開催されました。県及び東日本旅客鉄道株式会社秋田支社との連携により、「大曲の花火」のブランド力を活かした観光PRや、市特産品等の紹介や販売を行いました。

12 宮崎県宮崎市との青少年交流について

昨年12月26日から28日までの3日間、児童生徒をもつ家庭等の協力により、宮崎市の中学生15名を受け入れています。訪れた中学生は、スキーやホームステイによる本市の生活体験に加え、佐土原藩士が眠る協和地域の萬松寺や秋田市の全良寺を訪問し供養したほか、歓迎交流会等を通じて市内中学生と交流を深めました。

13 岩手県宮古市の令和元年台風19号被害に伴う寄附について

昨年10月に発生した台風19号により甚大な被害を受けた宮古市に対し、市からの見舞金200万円を12月9日に寄附したほか、市役所窓口に設置した募金箱と市職員への呼びかけに集まった103万3千円を1月27日に寄附しました。

【建設部】

14 雄物川河川激甚災害対策特別緊急事業（国）について

1月末現在の進捗率は、用地調査業務63%、用地補償業務85%、築堤工事や堤防のかさ上げ等の工事76%と伺っています。

15 災害復旧関連事業等（県）について

1月末現在、災害復旧関連工事の発注率は、淀川66%、土買川100%、檜岡川70%と伺っています。

16 はなびの小路整備事業について

花火伝統文化継承資料館「はなび・アム」へのアクセス性と市街地の回遊性の向上を目的に進めていた丸子川左岸の堤防歩道に係る整備工事は昨年12月に完了しました。

17 大曲駅東駐車場拡張整備工事について

駐車場機器の移設等を終え、現在、駐車場を一部供用しながら既存ロータリー部分の整備を行っており、4月1日の供用開始に向け順調に進捗しています。

【災害復旧事務所】

18 災害復旧事業について

1月末現在で全188カ所のうち186カ所で工事が完了し、残る2箇所の被災箇所についても年度内完成を目指し工事を進めています。これにより、国の補助事業として採択された公共土木施設、農地・農業用施設及び林道の災害復旧並びに県補助の治山事業のすべてが復旧となります。

【教育委員会 教育指導部】

19 小・中学校の部活動について

昨年12月14日、15日の両日、さいたまスーパーアリーナを会場に第47回マーチングバンド全国大会が開催され、大曲中学校吹奏楽部が中学校の部・大編成で13年連続となる金賞を獲得したほか、HMB花館小学校マーチングバンド及び大曲小学校マーチングバンド部が小学校の部で銀賞を受賞しました。

また、秋田県中学校秋季体育大会において、女子の部で大曲中学校のバレーボール部、バスケットボール部、卓球部が優勝しました。バスケットボール部と卓球部は、3月下旬に行われる全国大会に出場します。

20 大仙市中学校生徒海外派遣事業について

1月4日から12日までの9日間、市内の中学生18名をオーストラリアへ派遣しました。生徒らは、ファームステイ先のホストファミリーや現地の子供たちと交流したほか、事前に設定した研究テーマについて、滞在中に気づいたことや学んだことをレポートにまとめ、2月12日に開催した報告会で発表しました。

21 「大仙ふるさと博士育成」事業について

1月6日から10日までの間、4企業で「企業見学DAY」を開催したほか、3農業施設で「農業体験DAY」を行いました。1月31日現在、大仙ふるさと博士の認定を受けた児童生徒は、名誉博士68人、上級452人、中級2,052人、初級4,450人となっています。

【教育委員会 生涯学習部】

22 大曲武道館の改築について

3月20日の竣工に向け工事が順調に進捗しており、多くの皆様の新たな活動拠点として利用しやすい施設を目指し、開館の準備を進めています。

23 河港のまち角間川・歴史まちづくり事業について

現在、三家の旧家群について修理・修繕を行っていますが、管理棟をはじめとする便益施設の整備等が概ね完了し、管理業務を受託している地元のまちづくり会社が、旧家群の公開やガイド活動、イベントの開催を行っています。

【上下水道局】

24 上水道事業について

内小友七頭地区の配水管布設工事3工区が昨年11月12日に、2工区が12月20日に完了しました。また、1工区については3月中旬の完了を目指しています。このほか、平成26年度に着手した宇津台浄水場更新事業は、3月中旬の完了を目指し工事が進捗しています。

25 簡易水道事業について

昨年12月16日に西仙北地域杉山田地内の雄物川築堤工事に伴う配水管布設替工事が完了したほか、1月23日に中仙地域入角簡易水道の導水管布設工事が完了しました。また、2月13日に、プロポーザル方式により選定した業者と「集中監視システム統合整備事業」の業務委託契約を締結しました。

26 下水道事業について

今年度に予定していた全工事が完了しました。また、農業集落排水施設の流域下水道接続に係る実施設計も完了し、令和2年度に接続工事を開始します。